

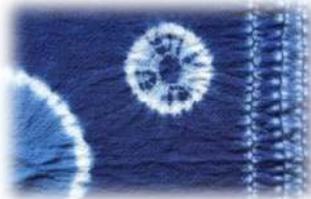
# うた ひつじの詩だより

2012. 6. 1  
毎月発行 No.135  
この夏はご注文の品と  
いっしょにお届けします

先月半ば、まりーさんのアトリエで、大勢集まって藍染めの会がありました。木綿の布に麻糸で縫い取りしながら絞っていく、本格的な絞りの仕方と、たくさんのコツを教えていただき、初めての私には新鮮な発見がいっぱいでした。今月の「まりーさんのアトリエから」の題字のひつじ雲は、その時、自分の作品の準備を終えた手早い方たちが、雲の形を縫い取りして、絞って染めたものです。

庭に用意された大きな染色容器を囲んで、交代で布を浸して染めていきます。「やっぱり、藍染めは夏よね〜」「川辺で染めたことがあるけど、気持ちいいのよね〜」と、語らう声が聞こえてきて、心むらむら、それは楽しそう、いつか体験したいものだと思います。

藍の葉が茂る頃には、生葉のたたき染めも楽しいですね。藍の葉っぱを布の上に置き、新聞紙やキッチンペーパーで挟んで、石でとんとん叩くと、布に葉っぱの形がきれいにうつります。お子さんと一緒に是非どうぞ！



## 6月のテーブル 「妖精たちの雨やどり」

犬の散歩をしていると、早春にふきのとうを採ったあたりに露の葉がしげっていて、あじさいも葉をひろげてぼちぼち花も咲き始めています。

雨が降ると、そんな葉陰にだれかいそうな気がしませんか？  
今月はそんなイメージです。  
池上洋子



## 新刊書のご案内「絵本の庭へ」 児童図書館基本蔵書目録 1

〈1950年〜2010年12月までに刊行された絵本から、子どもたちに手渡し続けたい1157冊を厳選、それぞれに表紙の画像と簡潔な紹介文をつけました。キーワードから、本を探せる件名索引、お話会に役立つ読み聞かせマークなども充実しています。図書館はもちろん、文庫や幼稚園、保育園、ボランティアの方々にも幅広くご活用いただけます。

子どもと一緒に絵本をたのしみたいすべての人へおすすめします。)  
～東京子ども図書館出版案内より転載～  
(東京子ども図書館編 A5判/400ページ本体価格3600円)



「はぐくむ芸」は、子どもたちの感性を育むと同時にものづくりという文化を育てていきます。(文・塚田結子)一

松本のクラフトに関わる人々が、子どもたちへの視点を忘れていないことがとてもうれしく、大共感です。アトリエへ帰る車中、まりーさんは、みんなでつなげるひつじ雲の藍染めの仕上げに早く取り掛かりたくて、うすうすしてしまいました。

花の便りに浮かれる5月ですが、まりーさんは松本、あがたの森のクラフトフェアに行ってきました。その機関誌「工芸の五月」に『はぐくむ芸—子どもたちへつなげたいもの』という一文があります。

一子どものための芸は、親がこどものために心を配り手をうごかすことの延長にあるように思います。(中略)、  
「工芸の五月」2012オフィシャルガイドブックより引用

## ばたぼん通信

## 「男の子にも、女の子にも」

「男の子にお人形ってどうなのでしょう」とか、「うちには男の子しかいないから」という声をよく耳にします。私はぜひ男の子にもお人形を作っていただきたいと思っています。

我が家には中学2年生の娘と小学校6年生の息子がいます。子ども達がまだ幼稚園に通っていた頃、娘にはA体の女の子を、息子にはB体の男の子をそれぞれ作ってあげました。

女の子と男の子では遊び方は違います。娘の遊び方は、周りのお友達はみんなそれぞれのA体を持っていたから、お互いのお洋服を交換してファッションショーをしたり、それぞれの家具を持ち寄ってお人形にあったインテリアを楽しんでいました。



男の子の遊び方はどうでしょう。当然のことながらファッションショーなどしません。でも、ちゃんとお世話をしてあげていました。夜になるとパジャマに着替えさせ、朝になると洋服に着替えさせています。髪もときどきとかしてあげていました。

息子の最大の楽しみは人形劇でした。ベンチの裏に隠れ、B体(名前はたろうさん)とたろうさんの仲良しのクマのぬいぐるみ(名前



はぐくちゃん)を使っていつも人形劇を見せてくれていました。普段はサッカーばかりやっている元気いっぱいの息子ですが、たろうさんを扱う時はとても丁寧にやさしく接しています。このウォドルフ人形を通して、大切にできる気持ち、やさしくするという気持ちを育てていくことができるのだと思います。とかく元気な男の子はものの扱いも雑で、すぐ投げたり、壊したりしがちです。でもそんな男の子にこそ、自分の一番身近な、大好きな人の作るウォドルフ人形を、あげて欲しいと思っています。

娘と息子の今ですが・・・娘は学校で「私の大切なもの」というテーマで発表をする機会がありました。娘は「ウォドルフ人形にする」といって原稿を書き、人形を学校へ持って行って発表しました。息子はサッカーの試合の時にはたろうさんに声を掛けて出かけています。いつまでも大切にしてくれてとても嬉しいです。

和田真帆(東京都町田市在住)

2013年4月12(金)・13(土)・14日(日) 横浜「赤レンガ倉庫」1号館2Fにて、スウェーデンひつじの詩舎の作品展を開催いたします。どうぞご期待ください!

「スペース ペレのあたらしいふく」6月の開店日  
1日(金)~15日(金)(日曜日を除く) 10:00~16:30

ホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当: 佐藤治子

♥スウェーデンひつじの詩舎♥

スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708

相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035